

新型コロナウイルスと戦う福岡和白病院

新型コロナウイルスの重症度分類と標準治療

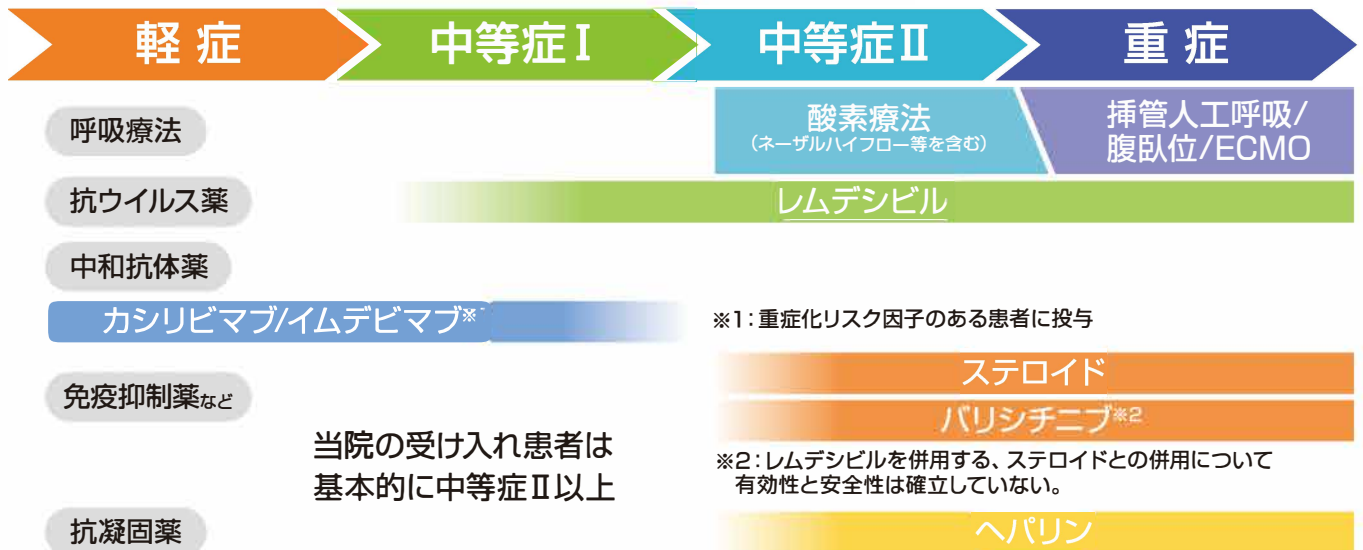


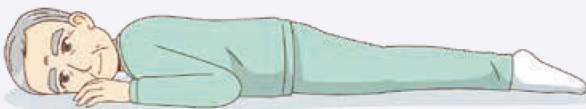
図4-1 重症度別マネジメントのまとめ
<https://www.mhlw.go.jp/content/000785119.pdf>

当院の受け入れ患者は基本的に中等症Ⅱ以上

腹臥位療法とは

日中は、仰向けで治療を受けている患者様を、夕方から翌朝まで約16~17時間ほどうつぶせ（腹臥位）にします。そうすることで、夜間は、背中側の肺への圧迫を減らし、さらにつぶれた背中側の肺を膨らますことで、呼吸機能の改善を図る治療方法です。

重症患者の腹臥位療法



新型コロナウイルス肺炎で効果がある場合があると言われている腹臥位療法を当院でも多職種で連携して積極的に行っています

ECMO (体外式膜型人工肺) とは

人の肺の代わりに人工的に作られた人工肺によって、酸素と二酸化炭素の交換（ガス交換）を行うのがエクモです。

エクモはガス交換をする人工肺（膜型人工肺）と、体内から血液を取り出し人工肺に血液を送り体内に送り戻す血液ポンプによって構成されています。



ECMO患者のリハビリ

当院ではECMOが装着されている重症患者であっても医師、看護師、理学療法士、臨床工学技師などの多職種で協力し、超急性期から積極的リハビリを行っています。

第4波における当院の受け入れ状況まとめ

●福岡和白病院の救命率

ECMO **80%** (4/5)

全国的なECMOの救命率（第3波まで）
58.4~68%

●福岡和白病院の軽快率(第4波)

人工呼吸器 **72.2%**

全国的な人工呼吸器からの軽快率
74~77%

●総数：48名 全て中等症以上

●ECMO+人工呼吸器患者：5名
（第1~4波で総合で9名）

●ECMOを除く人工呼吸器患者：18名

<https://crisis.ecmonet.jp>